

地域のこれからを探る

島木のおみせ (平日午前7時～午後7時)

住民待望の「おみせ」

昨年12月、島木峰地区でJAの委託を受けて日用品や燃料の販売を行っていた店が閉店。これにより、近いスーパーまで約5キロ、地域の高齢者にとっては不便な日々が続いていました。

そのような中、島木自治振興会が地域住民にアンケートを実施したところ、80%を越える方が「おみせ」の設置を希望。これを受けて、自治振興会産業振興部の岩永利一部長を中心とし、設置に向け動き出しました。

JA上益城と協議を重ね、施設の借り受けと商品の仕入れで全面協力を受けました。さらにJAは店員の研修にも協力。2名の店員はAコープで研修を受けています。

開店に必要な商品棚などの整備には、県の「高齢者が活躍する地域コミュニティづくり支援事業」を活用しました。仕入れる商品は、1戸から5,000円ずつ集めた出資金を充て、品目は地元婦人会で検討を重ねて決定するなど、地域を挙げて準備に取り組みました。

自分たちで支えることが存続のカギ

こうして迎えた9月7日の「島木のおみせ」オープンには、この日を待ちわびた地域の方々が多数つめかけました。あいさつに立った平野慶治自治振興会長は「念願だった「おみせ」の復活。自分たちの店と思って積極的に利用してほしい。」と地域の利用に期待を込めました。

店内には洗剤などの日用品、たまごや豆腐などの食料品が並び、レジにはすぐに行列ができました。両手にたくさんの買い物袋を抱え、帰路につく方々は一様に笑顔でした。



行列のできたレジは大忙し

復活した「島木のおみせ」を地域の拠点とするべく、島木自治振興会あげでの取り組みが、今スタートしました。

●問い合わせ先

島木のおみせ

電話 75-0102



おみせの前で開店を祝いました。

今までにない、地域発の新しい取り組みが始まりました。

縁側カフェ (日曜午後1時～午後4時)

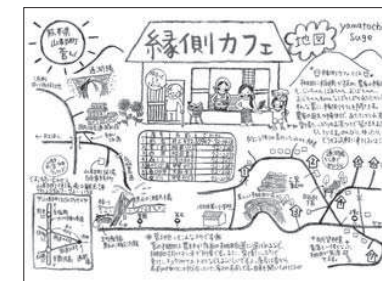


のんびりとした時間を楽しむ

縁側からの眺めを楽しんで

菅地区の野菜を仕入れ、菅ブランドとして熊本市帯山で販売を行っている菅純一郎さんがある日、野菜を出荷している農家に提案しました。「縁側で、きれいな景色とお茶を楽しむカフェをやりませんか？」

これに上菅地区の7名の女性が応え、地域での呼び名を屋号にした7つの縁側カフェが誕生しました。



手づくりのパンフレット

- 〈前 合〉井上キクエさん
- 〈堂 ノ 前〉舛田ソミエさん
- 〈西 田〉舛田サダ子さん
- 〈森 ノ 上〉渡辺せつ子さん
- 〈たばこや〉甲斐ヌイ子さん
- 〈春 口〉大和 幸子さん
- 〈桑 ずり〉甲斐千代子さん

縁側から見る棚田景観と農家との会話、お茶と菅地区の野菜を使った漬け物やお煮染めなどを楽しんでもらいます。開催は日曜午後1時から午後4時までで、現在のところ休憩料として500円を集めています。ただし、農家が開く縁側カフェのため、田植えや稲刈りなどの農繁期は開催していません。

メディアで取り上げられた影響もあり、取材に伺った9月26日は県内外から多くのお客さんが訪れていました。しかし、縁側での対応ができなくなり、交流もできな

いま、やむを得ずお断りするところもあったようです。

〈春口〉大和幸子さんは「菅の景色を、会話とお茶とともに楽しんでもらいたい。長く続けていきたいので、無理をしないようにしたい。」と、これからじっくり縁側カフェを育てていきたいと語ってくれました。

のんびり過ごしてもらおうと始まった縁側カフェ。訪れる人も地域の人も共にのんびり過ごせるものになって欲しいものです。

●問い合わせ先

商工観光課

電話 72-1158



カフェを開いたみなさん